

フィールド系から機器専門家へ…

伊那分室の価値向上をめざして



学術研究院 農学系
助手(農学部)

小田 あゆみ

Ayumi Oda



現在の仕事

農学部内の基盤研究支援センター機器分析支援部門・伊那分室で、共通機器の維持管理を担当しています。分析機器の性能は研究成果を左右するため、多くの高性能機器を良好な状態で保ち、活用していただくことで研究を支えたいと考えています。業務と並行して学内外の先生方との共同研究や自身の研究にも取り組み、機器利用や受託分析にもつながっています。共通機器が研究の前進に役立ったという声を聞くと、大きなやりがいを感じます。

今の自分があるのは

ライフイベントはキャリア形成に不利に働きがちですが、大学の「研究補助者制度」に大きく救われています。自由に使える時間に制限が付き、業務や実験が思うように進められない時でも、研究補助者の方のおかげで効率的に業務を続けることができている。補助者自身もライフイベントの経験者で、職場復帰後の辛い時期を支えていただきました。現在の信州大学の制度では休業中に業務や研究が止まってしまうのですが、培養や設備維持を他者に任せられれば復帰がより円滑になり成果も上がります。休業中でも補助者に業務を依頼できる制度があるとよいと感じています。

今後の展望

研究活動に必要な装置類が大型化・高性能化している現代において、共通機器施設の存在感は増していますが、一方で装置マネジメントや適切なオペレーションができる人材は不足しています。今後は装置の利用促進だけでなく、研究補助者制度を活用した人材育成や技術補佐員のキャリア形成にも力を入れ、受託分析などの業務を拡大し、農学部だけでなく、伊那谷地域の研究活動における伊那分室のプレゼンスを向上させたいと考えています。



研究補助者の方と一緒に

Message

後進の女性研究者や大学生、高校生のみなさんへ

現在は機器分析を専門とする職場にいますが、私は農学部の中でも野外調査を主体とするフィールド系の出身です。野外で見た現象を説明する手法を求めて分析に興味を持ち、その道を進んだ結果、今の仕事に繋がりました。分析の仕事は面白く、この経験も次の何かへ繋がると感じています。興味だけでは踏み出しにくいこともありますが、一步踏み出した先に広がる未来を楽しみに、いつも明るい方へ、心の向く方へ進んでみてください。



学生時代、乾燥地植物の水ストレスを測定しているところ
(内モンゴル自治区での夜明け前測定)